

検印

第5学年1組 総合的な学習の時間 学習指導案

平成31年1月16日(水) 第5校時
授業場所 5年1組 教室
在籍児童数 24名
指導者 教諭

1 単元名 「つくるぞ!西小米」(第5学年) 5月~2月(62時間)

2 単元目標

- ・米作りの体験(田植え、稲の観察など)をとおして、自分の生活の一部として関わりをもつ「米」について幅広く知り、米のよさや大切さ、米作りに関わる人々の苦勞や願いに気づき、さまざまな食文化や食生活に関心をもって自分にできることを考えることができる。

【知識及び技能】

- ・探究課題に対して多面的な視点から繰り返し関わりながら課題を発見したり、関連付けや比較等しながら整理・分析したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・米に関わる人々との交流や米に関連する事象を調査することをとおして、米のよさや問題に気づき、自分の生活との関係について考えようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 児童の実態

本学級の児童は、第3学年の総合的な学習の時間においては「町探検」、第4学年では「環境」「福祉」をテーマに学習している。その中で、見学での取材やゲストティーチャーの話、本での調べ学習など、見たり聞いたり調べたりして分かったことをまとめたり、まとめたことを発表したりする経験をしてきている。

本校の周りには水田が多いが、米づくりに関する経験は、ほとんどの児童が全くなかった。また、食の細い児童が多く、給食の残菜もやや多い。米に対する認識についても、食料、主食という程度で、特に意識したことがない様子であった。しかし、田植えなどの体験活動やインタビューなどの調査活動を楽しみにし、「米をつくりたい」「食べたい」という思いを全員がもっていることから、米や米作りについての調査・体験活動を適切な場面に設定することで、興味をもって主体的に追究させていくことができると考えた。春から子どもたちは、代かき、田植え、水生昆虫調査、田の草取りに汗を流し、2学期には、稲刈り、天日干し、脱穀を行い、多くの米を収穫することができた。収穫した新米を食べ、そのおいしさを実感した上で、米作りの大変さや農家の人の思いを感じ取ったり、お米を大切にしていきたいという考えをもつようになってきた。

これまでの活動をとおして児童は、自分の課題を解決していく方法や手順を少しずつ理解してきている。しかし、解決したことを自分なりの方法でまとめ表現していく力や、聞き手を意識して自分の意図を分かりやすく発表する力、解決した結果を発表・交流し互いのよさを認め合ったりする力は十分育っているとは言い難い。そこで、今まで収集してきた情報を発表資料にまとめ交流する学習をとおして、発表する力、表現する力、意見を交流し合う力と共に、お互いを認め高め合う態度を育成していきたい。

4 教材について

本単元では実際に稲を栽培し、田植えから収穫・消費までを体験する。その地産地消体験を、稲作の苦労や難しさを実感し、収穫の喜びを味わうことが1つの重要な学習活動である。また、文献やインターネットなどを活用し、米についての知識を深めたり広めたりすること、農業や環境などへの問題意識に対して自分なりの考えをもつことも大切な活動である。実際に体験したことや調べたことをもとに、より深く物事を考え、自分が未来に向けてとるべき態度を育てていきたい。単元の導入では、実際にお米を栽培することを計画することで、本単元の動機付けを図るとともに、見通しをもたせる。この体験的学習をする中で、ウェビングマップを活用しながら、個人の興味・関心に基づき、自分自身の思考を整理し、深めながら各自の課題について、調査活動を展開する。

その中で、お米作りに関わる稲刈り、脱穀、調理、試食等の活動を展開し、稲の植物的生長と共に稲、米に関わる課題意識や調査意欲を持続させる。その活動には、できる限り、お米に関わる人々に学習に関わっていただき、思いや願い、米に関わっている実際の話をしていただく。単元の終末においては、学習報告会を行い、調査結果や児童の思考過程、児童自身の思い等が発表され、多様な知識等が交流できるように学習を展開する。そして、これからの「お米」について児童自身が価値判断や主体的な態度が形成されるように学習を展開する。

また、単元をとおして、児童同士が思考を深めたり、広げたり、交流できるように思考ツールを活用したり、教員が助言や支援をすることで、児童の主体的な学習が促され、学習が自分にとって意味のあるものとなるように留意する。

5 研究主題との関わり

【研究主題】

「カリキュラム・マネジメントによる学校教育活動の改善に関する研究」
～3つの側面から学校教育活動を改善するための『つなぐ』教育の追究～

上記の研究主題に迫るために仮説と手立てを次のように設定した。

【仮説①】

「つなぐ」教育を視点として、様々な人・もの・こと等へのつながりを意識する中で体験・体感を重視した探究的な学習を展開し、子どもたちの主体性を引き出すことができれば、子どもたちに「困難な課題に立ち向かい、様々な人々と力を合わせて解決し、よりよい未来を作ろうと考え行動する力」が育成されるであろう。

【手だて①】

・SDGs（持続可能な開発目標）、ESD（持続可能な社会の担い手を育む教育）の視点から学びをコーディネートする。

・社会科の「暮らしを支える食料生産」、SDGsのNo.②（飢餓をゼロに）⑩（住み続けられるまちづくりを）⑱（パートナーシップで目標を達成しよう）との関連を図る。

【手だて②】

・総合的な学習の時間の学習指導において、それぞれの学びの特性を意識した学習活動を展開し、児童の主体性を引き出す。

- ・体験活動を繰り返すことで、課題意識や調査意欲を持続させ、探究的な学習の①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現という4つの学習過程が何度も繰り返され、スパイラルに高まっていくようにする。
- ・考えの一覧表や思考ツールを用いて、自分の考えと友達の考えや以前の自分自身の考えをつなぎ、比較したり、思考を深めたり、広げたり、交流できるようにする。

【仮説②】

カリキュラム・マネジメントの3つの側面を意図的・計画的教育課程に位置づけ、組織的に実践すれば、より質の高い教育活動に改善され、子どもたちに「困難な課題に立ち向かい、様々な人々と力を合わせて解決し、よりよい未来を作ろうと考え行動する力」が育成されるであろう。

【手だて①】

・児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく。

- ・総合的な学習の時間を中心として教科等の関連を重視する ESD カレンダーを作成し、活用する。

【手だて②】

・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていく。

- ・地域の人材の活用を図り、米作りに関わる方に、田植えや稲刈り、脱穀の仕方を教えていただくとともに、思いや願いをお話していただく。

6 指導計画作成にあたって留意すべき事項

留意すべき事項	(1)「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点	(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点	(3)「教科横断的」な視点	(4)「社会に関わった教育課程」の視点	(5)「道徳教育の充実」の視点
	・振り返りによる一人一人の学びの見取り	・特に整理・分析に主眼を置く	・ESD カレンダー ・SDGs	・GT とのかかわり ・週報や HP 等での情報の発信	・有意味性 ・概念の形成

7 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>【課題設定】 地域の人々との関わりや友達との協働的な活動をとおして、体験したことや調べたことをもとにして課題を設定することができる。</p> <p>【情報の収集】 課題に対して必要な情報を学習したことをもとにして活動することができる。</p> <p>【整理・分析】 必要な情報を取捨選択し、目的に合わせて整理・分析し、物事の共通点や相違点を考えることができる。</p> <p>【まとめ・表現】 自分にできることを考え、実践に結び付けることができる。</p>	<p>【課題設定】 課題に対しての解決の見通しを持ち、計画を立てることができる。</p> <p>【情報の収集】 課題に対して自分にとって必要な情報を取捨選択することができる。</p> <p>【整理・分析】 調べたことを比較、分類、序列化、類推、関連付け等とおしてその特徴に気付くことができる。</p> <p>【まとめ・表現】 収集した情報を相手や目的に応じて、自分の言葉で効果的に表現することができる。</p>	<p>【課題設定】 米作りの方法や苦労を意識して、自分にできることはないかという視点から考えることができる。</p> <p>【情報の収集】 課題解決に向けて、身近な人々と協働して探究活動に取り組むことができる。</p> <p>【整理・分析】 米作りの伝統とよさやこれまでの体験をもとに、自分たちの生活とのかかわりを考えることができる。</p> <p>【まとめ・表現】 探究活動をとおして、学んだことを振り返り、今後の生き方に生かすことができる。</p>

8 単元の指導計画

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

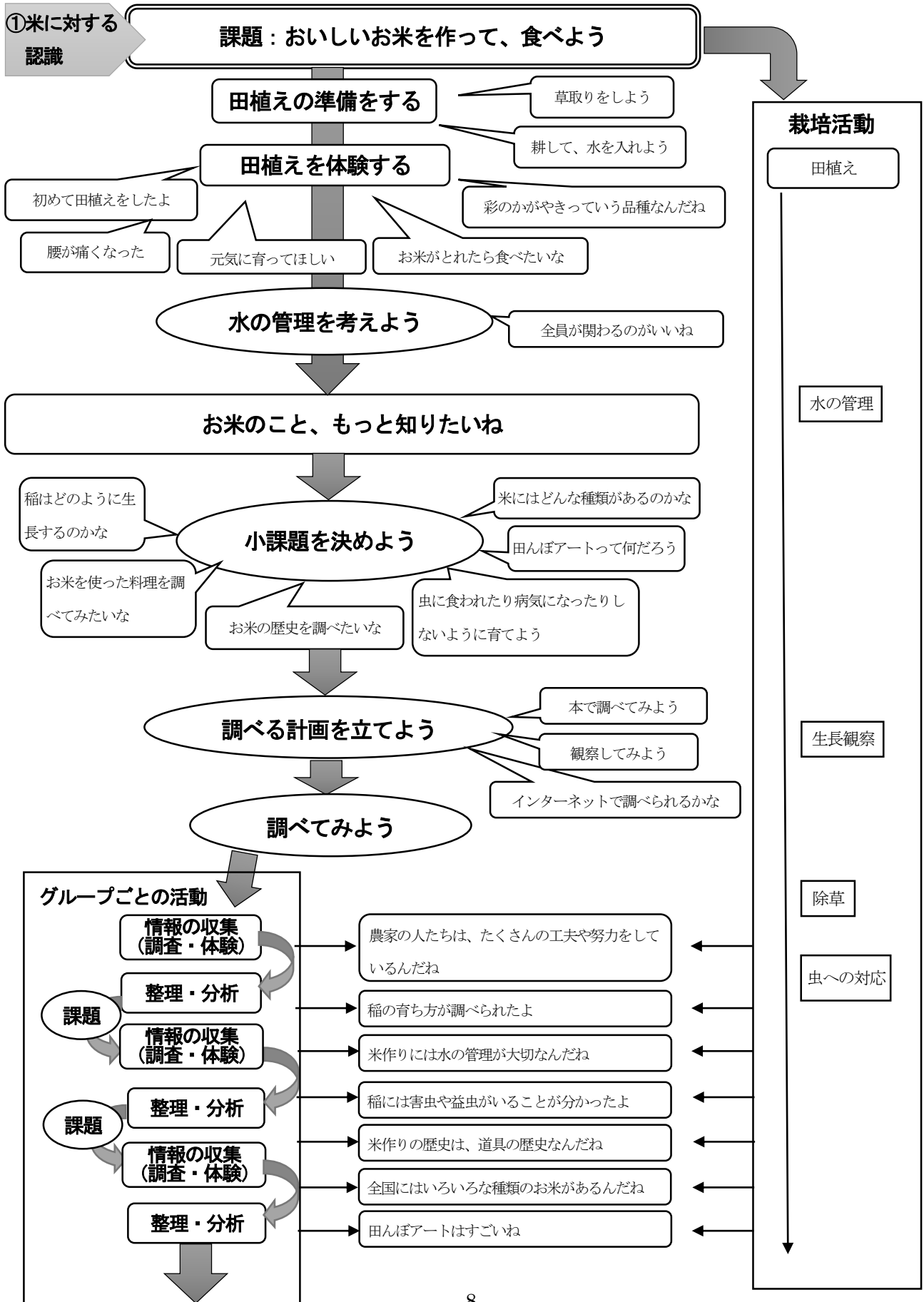
探究の課程	○学習活動・児童の思考	・指導上の留意点	時数
課題	○米や米作りに関心をもつ。 ・自分たちでお米を作ってみたい。 ・米はどうやって作るのかな。 ・収穫したらみんなで食べたいね。	・これから学習する「お米」について関心をもつことができるようにさせる。 【6 (2)】	3
情報	○田んぼの準備をする。 ・田んぼの草取りをしなくちゃ。 ・耕して代かきをするんだね。	・社会科「米作りのさかんな庄内平野」の米作りを想起させ、米作りの1年の作業の流れを確認させる。 【6 (3)】	
情報	○田植えをする。 ・苗をきれいに植えるためにこんな道具を使うんだな。 ・田んぼの土は気持ちいいよ。(気持ち悪いよ。)	・土(泥)の感触を十分味わい、楽しく田植えを体験させる 【6 (3)】 ・田植えについての理解を深め、農家の方々の工夫や苦労を知ることができるように指導する。 【6 (4)】	5
表現	・手で植えるのは腰が痛くて、時間もか	・作業の楽しさや大変さについて振り返	

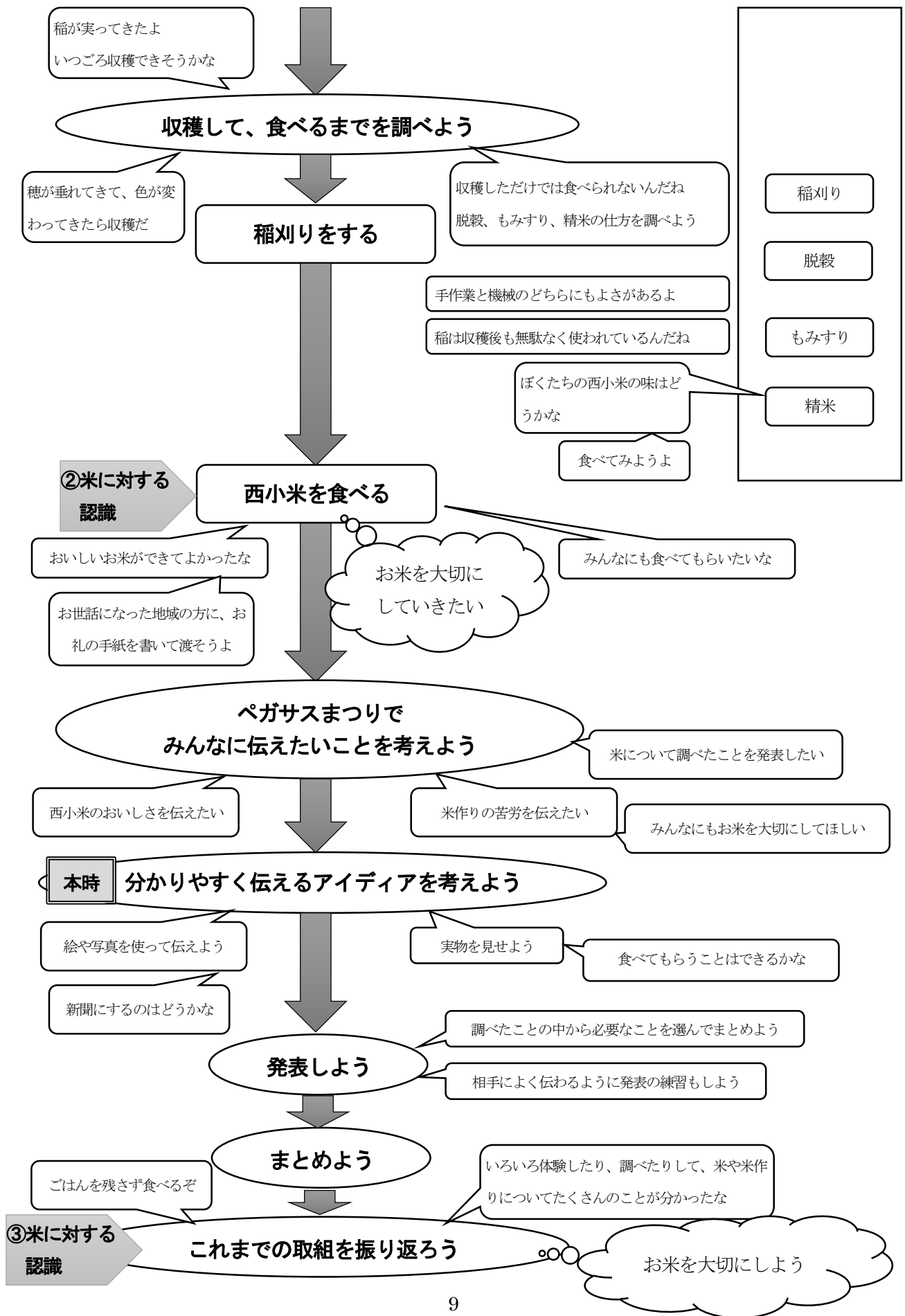
整理	<p>かり、とても大変な作業だな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順調に生長してほしいな。 <p>○栽培活動の仕方を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の管理を毎日しなくてはいけないね。 ・みんなが順番に担当しよう。 ・土日の世話はどうしようか。 	<p>らせるとともに、今後の生長への期待を記録させる。【6 (2)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が主体的に栽培活動に関わることができるような方法を意識させる。 <p>【6 (2)】</p>	
整理 課題 整理	<p>○「お米」について思いつくことをウェビングマップにまとめる。</p> <p>○米や米作りについて調べたいことをカードに書く。</p> <p>○小課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作りの昔と今について調べたい。 ・米の種類や品種改良って何だろう。 ・稲が病気になったり、害虫に食べられたりしないように調べよう。 ・お米を使った料理を調べてみたいな。 ・稲の生長と気温や水温の関係が知りたいな。 ・田んぼアートって何だろう。 <p>○調べるための計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これで調べられそうぞ。 ・よし、がんばって調べるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングマップを作成し「お米」について知りたいことを絞り、課題が設定できるよう声がけをしながら取り組ませる。【6 (2)】 ・同じ課題に興味を持った者同士でグループを作り、協力し合って調べ活動が行えるようにする。【6 (2)】 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる方法や必要なもの、ことについて考えさせる。【6 (3)】 ・課題別に見通しをもって計画を立てられるようにする。【6 (2)】 	4
情報 整理	<p>○小課題に沿って、グループごとに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に教えてもらって、新しい資料が手に入ったぞ。 ・稲の害虫や益虫のことが分かったよ。学校の田んぼにいるか見に行こう。 ・ぼくたちの稲と農家さんの稲を比べてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットなどを活用して自主的に調べさせる。【6 (2)】 	10
情報 整理 情報	<p>○米作りの体験活動を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田んぼにはいろいろな生き物があるんだな。 ・いつも水やりをしなくてはいけないから大変だ。 ・草取りは大変だね。 <p>○稲の観察をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・稲の成長には水の管理が重要なことを体験をとおして実感させる。 <p>【6 (3) (5)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲の成長の妨げとなる雑草を取り除く作業を体験させる。【6 (3)】 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・丈が伸びて成長してきた。 ・分けつして太くなっていくんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲の細かい部分までよく観察させる。 (稲の色、長さなど) 【6 (3)】 	
整理	○調べたことを整理し、分かったことや自分の考えを整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に応じて適切な整理ができるようにする。【6 (2)】 ・国語「活動報告書を書こう」と関連させ、活動報告書にまとめさせる。 【6 (3)】 	4
表現	○分かったことを知らせ合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに発表し合い、知識を共有する。【6 (2)】 	
課題情報	○稲刈りの準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・稲に穂が出ていたよ。 ・いつごろ稲刈りができるのだろう。 ・農家の人はどうやって稲刈りの日を決めるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットなどを活用して調べさせる。【6 (2)】 ・稲刈りの方法を知り、活動の準備を行う。 	4
情報	○稲刈りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・鎌の使い方に慣れてきたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に、機会での作業との違いについてもお話していただく。【6 (4)】 	
整理	・刈った稲はこのようにして干すんだな。	<ul style="list-style-type: none"> ・稲が実ったこと、それを収穫することの喜びを感じながら楽しく作業をできるようにする。【6 (2) (5)】 	3
表現	・やっとお米ができてうれしいな。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の楽しさや大変さについて振り返らせるとともに、収穫の喜びを学習シートに記録させる。【6 (2)】 	
課題情報	○収穫後の作業を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・脱穀、もみすり、精米をして食べられるお米になるんだね。 ・それぞれの作業はどうやってするのか。 ・ふるさとルームにある昔の道具はどうやって使うのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットなどを活用して調べさせる。【6 (2)】 ・必要な道具や準備について話し合わせ、活動の準備を行わせる。【6 (2)】 	3
情報	○脱穀、もみすり、精米をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ食べられるお米になった。 ・手作業は時間がかかるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手作業や昔の道具での作業も体験させ、今の作業との違いに気づかせる。 【6 (2) (4)】 	5
情報	○縄ない体験をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・残ったわらもいろいろなことに利用されているんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に残ったわらの利用方法についてお話していただき、縄ないについて教えていただく。【6 (4) (5)】 	
情報	○自分たちが脱穀したお米を調理し試食する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで作ったお米はおいしいね。 ・一粒でも大切にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの収穫したお米を調理し、食べることでお米一粒一粒のありがたみを知ることができるように指導する。 【6 (2) (5)】 	6

表現	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方にも食べてもらおう。 ○お世話になった地域の方に手紙を書く。 ・おいしいお米作りでは、とてもお世話になったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習と関連づけながら取り組みさせる。【6 (3)】 ・感謝の気持ちを大事にする。【6 (5)】 	
課題 整理	<ul style="list-style-type: none"> ○ペガサスマつりで伝えたいことを考える。 ○調べたことや体験したことをどのように伝えたらよいかを考える。 <p style="text-align: center;">【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに分かりやすく伝える方法を考えよう。 ・写真や図を使ったらいいね。 ・お米やわらが残っているから実物を見せるのもいいな。 ○発表の資料を作り、練習をする。 ・調べたことから選んで分かりやすくまとめよう。 ・聞いている人によく伝わるように考えながら練習しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りや米について調べてきたことを、大勢の人に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいか考えさせる。【6 (2)】 ・他教科で学習したことも必要に応じて活かしながらまとめさせる。【6 (3)】 ・内容が相手によく伝わるように発表の仕方を工夫させる。【6 (2)】 	10
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ペガサスマつりをする。 ・みんなに聞いてもらえてよかったな。 ・しっかり伝えられたな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が伝えたい相手（地域の方や保護者）に事前に参加をお願いしておく。【6 (4)】 	2
整理 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○活動を振り返り、自分にできることを考える。 ・いろいろなことを体験したり調べたりしてきたな。 ・米や米作りについてたくさんのが分かった。 ○自分たちができることについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動を写真やポートフォリオでふり返らせ、考えを深めさせる。【6 (2)】 ・考えを作文に書かせる。【6 (2)】 ・作文を交流させ、自分たちができることをまとめる。【6 (2) (5)】 	3

9 活動の流れ





10 本時の学習指導 (50/62時)

(1) 目標 よりよく伝えるための視点を基に整理・分析を行い、ペガサスマつりで自分の伝えたい方法を考えることができる。

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童の思考	・指導上の留意点 ※評価 ★仮説に迫るための手立て	準備	時間
<p>1 前時の振り返りを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスのテーマは「お米の大切さを伝えよう」だったな。 ・ぼくは、西小米のおいしさを伝えたいよ。 ・新聞にまとめて、みんなに読んでもらおう。 ・紙芝居なら低学年にも分かりやすいんじゃないかな。 ・この考えと似ているな。 ・自分の考えと違うな。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いた振り返りから、ペガサスマつりで伝える方法にはどんなものがあるか確認する。 ・一人一人の伝えたい思いと、前時に考えたことの一覧表を用意し、全員の考えを見える化し、他の人の考えを知り、自分の考えと比較して本時の課題につなげる。 ★個人内対話をとおして、自分自身や友達の考えをつなげる。 	振り返りカード一覧表	5
<p>西小米作りをとおして伝えたいことが、より伝わる方法を話し合おう。</p>			
<p>3 これまで考えたアイデアを座標軸を使って位置付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしさを伝えるには食べてもらうのが一番だよ。 ・新聞にまとめるのは作業が多そうだ。 ・絵や写真があると分かりやすいから効果大の方かな。 ・絵や写真だけでは、伝えたいことがよく分からないかもしれないな。効果は小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業「多⇔少」と効果「大⇔小」の視点で座標軸(ワークシート)に書きこませる。 ・1つを例に座標軸への位置付け方を示す。 ・残りのアイデアについては、個人で考えを書きこませる。 	座標軸	5
<p>4 全体で話し合い、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのアイデアについて座標軸のどこに位置するか、話し合いながら置いていく。 ・自分の考えの根拠を述べさせる。 ・枝葉末節にならないように留意し、具体的な発表の方法については次 	アイデアを書いた短冊	25

<ul style="list-style-type: none"> ・作業が少なく、効果が大きい方法がいいな。 ・作業が多くても効果が大きいものだからやってみよう。 ・実物を見せるだけでは効果は小さいけれど、説明をすれば効果が大きくなると思う。 ・初めは〇〇がいいと思ったけれど、他の方法もいいな。 	<p>時で話し合うことを助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が伝えたい方法を考え、黒板の座標軸中の方法にネームプレートを貼らせる。 ・全体を見て気づいたことをまとめ、ペガサスマつりでの発表の仕方を話し合う。 ・話し合ううちに新たな考えが出てきた場合は、座標軸に追加していく。 <p>★思考ツールを用いて、考えを比較したり、思考を深めたりする。</p>	<p>ネームプレート</p>	
<p>6 本時の活動を振り返りカードに記入し、次時への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動をとおして考えたことや、今後の活動に生かせることなどを中心に書くように助言する。 ・意図的に数名指名する。 <p>※収集した情報について、比較したり序列化したりして、自分の伝えたい方法を考えることができる。【記録】</p> <p>A：自分の伝えたいことをより効果の高い方法で伝えようと考えていることを賞賛するとともに、友達へ考えを広げるよう促す。</p> <p>C：自分の伝えたいことを確認させ、友達の考えも参考に、自分の伝えたい方法を考えさせる。</p>	<p>振り返りカード</p>	<p>10</p>

(3) 板書計画

